

## 人と自然が共存できる里山回復を目指した活動

### 酷暑とコロナ禍の中で

8月まで梅雨明けがずれ込み、梅雨明け後は、一転して、気温40℃前後を記録する日が現れ、最高気温35度以上の猛暑日が連続しています。

気象庁と環境省は高温注意情報を発表し、熱中症に対する一層の対応を求めました。また、コロナ禍で生活様式が一変して、感染防止のマスク着用は熱中症の危険も高まり、身体への負担が増大しています。

8月に入り、遅れていた林内の下草刈りや田んぼの除草を開始しました。作業は人と接触しないのでマスクは着けず、水分補給は小まめに行い、休憩は木々の呼吸を感じる涼しい風の通り道。吹き抜ける風で火照った身体が包まれ、体力の回復を助けます。

林内は、セミの鳴き声が降るように聞こえ、今年の特別な夏を満喫しています。

8月中旬が過ぎ、田んぼでは一気に出穂が始まり、8月27日には稲穂が成熟して、その重みで稲穂が垂れるようになりました。

### 活動拠点の植物

今年はクロムヨウラン（トサノクロムヨウラン）の発芽が広範囲に見られます。開花写真を撮るために足繁く通い、8月2日午前中に蚊と闘いながら撮影しました。撮影は運も味方にしなければなりません。※開花する、開花しない個体の論文が公開されています。



クロムヨウランの花



クロムヨウラン



8月3日除草後



8月27日稲穂生長



個性的なツクバネの果実